

共生社会被災者支援の会 臨時事務局会議
議事録

日 時 2011年7月1日(金) 午後9時30分から

場 所 梅田サテライトサロン(北新地駅真上、大阪駅前第二ビル6階)

参加者 柏木宏(教員)、阪野修、坂口一美、尾崎力、藤井伸二、吉野俊明、後藤陽子
(大阪ボランティア協会より)水谷様、岡村様

《開催目的》

同じ気仙沼を拠点に支援活動を展開している大阪ボランティア協会より情報交換の場を設けたいとの申し出を受け、今後の連携の可能性を検討するため情報交換会を設けた。

1) 大阪ボランティア協会の活動状況(岡村様・水谷様)

現在、大阪ボランティア協会では「地域とNPO・ボランティアの気仙沼連携チャレンジ」(略称:Project-K)事業をジャパンプラットフォーム(JPF)に申請、気仙沼の被災者支援を展開していく計画である。

【事業目的】

被災地住民の主体的な地域活動を促進し地域を支えるために、関西からのボランティアやイベント企画、物資支援等をつなぐことを通じて、住民やボランティアのつながり作り、地域復興に貢献する。

【事業概要】

- ◆ 気仙沼を中心に関西からのボランティアやイベント企画等をつなぐことを通じて、仮設住宅や在宅避難所等での孤独死や引きこもり防止といったセーフティネット機能を高める。
- ◆ 住民やボランティア、NPOの「参加型スタイル」を促進し、連携を深めながら主体的に地域活動に取り組むよう支援する。

【事業概要】

(1) コミュニティ活動支援

仮設住宅や在宅避難者への地域支援として、県内外のボランティアのコーディネートやイベント企画等を通して、県内外のボランティアやNPOとの交流を深める。協会がこれまで培ってきた市民参加による企画運営手法を生かし、住民との共同による企画作りから住民主体のつながりを支援する。

具体的事業: 仮設住宅でのグリーンカーテンづくり、お茶っ子付き青空市)

(2) 若者が中心になってつくる気仙沼と関西の学生の交流事業

夏季休暇中の学生のボランティア参加増加を予測し、高校生や大学生が主体的に災害支援にかかろうとする動きをサポートし、現地とのコーディネート機能を果たす。

具体的事業: ワークキャンプや講演など高校生や大学生の体験交流活動)

(3) 県内外企業への情報提供と地域復興支援のためのコーディネート

企業のCSR活動と地域復興活動を結びつけるための情報発信や資源のコーディネーションを積極的に推進する。

具体的事業：気仙沼産業復興のための社会貢献ビジョンの作成サポート、幹部クラス
の視察や交流事業の開発、現地企業の関西での交流事業、企業の社
員研修を兼ねた地域福祉研修)

(4) 気仙沼で活動する内外 NPO・NGO のネットワークの創出と支援

気仙沼における行政や市民団体の連携の不十分さを鑑み、地域の緊急支援から生活支
援への移行時期に際し、NPO や企業、行政との連携をそれぞれの特徴を生かしなが
らコーディネーションする。

具体的事業：チャリティグッズの作成 / 情報発信の取り組みの検討など

2) 当会との連携について

上記の事業計画内容を把握した上で、当会の事業内容と類似した事業との連携の可能
性について話し合った。

(1) ゲスト招致によるイベント開催に関して

7/11(月)開催予定のネットワークオレンジの小野寺氏をゲストに招いてのシンポジ
ウムの前に、関西の障害者支援団体を交えた懇談会を開いてはどうかという提案があ
った。

関西NPO支援センターネットワーク(KNN)のルートを利用して各団体に呼びか
けをしてはどうかという意見が出たが、大阪での支援を考えるという主旨に合致する
のが懸念された。しかし、当事者からの意見を交えることでリアリティのある議論
となる可能性を考え、今後関係者と調整を行なうこととした。

また、大阪ボランティア協会は7/8(金)~7/11(月)まで気仙沼漁港と大島を目的地とし
たボランティアバスを出す予定である。ちょうど7/13(水)のシンポジウムにゲスト
として来ていただく坂本氏が7/6(水)~7/11(月)まで気仙沼に滞在されているため、可
能であれば大阪ボランティアセンターとの面会の機会を設けたい。また、大島での活
動協力を了解してもらった「おばか隊」との面会も実現したいとのこと。

(2) 気仙沼高校生の来阪に関して

気仙沼高校生の来阪に関し、大阪ボランティアセンターで非常に高い映像技術力を持
っている堺市立三国ヶ丘高校生がいるので、彼に気仙沼高校生とつばさ高校生との交
流を一部始終映像で記録するのはどうかという提案があった。(保護者の承認と保護
者の代理として坂口さんが付き添うなどの条件つきとなる)

この提案に対して、マスコミなどが取材に入った場合に三国ヶ丘高校生にスポットが
あてられると、気仙沼高校やつばさ高校の生徒に不満を抱かせる要因にならないか
という意見が出され、今後の検討課題として残された。

(3) 大阪ボランティア協会との情報共有体制について

今後の活動における連携の可能性から、事務局レベルでの情報交換を活発化するため
役員ならびに事務局員宛のメールに水谷氏と岡村氏を追加することとした。

以上、文責 後藤